

現代詩の母・永瀬清子と現代詩の長女・茨木のり子

明治から平成にかけて
四つの時代を生き、身の回
りの生活をみずみずしい
感性で詩にあらわした「現
代詩の母」永瀬清子。

太平洋戦争の激動の中
で青春を過ごし、戦後は凜
とした言葉で日本現代詩
を牽引した「現代詩の長女」茨木のり子。

この二人の詩人が学生時代を過ごし、永瀬
が詩作のきっかけに目覚め、茨木が詩人として
の人格を形成した地は、愛知でした。

永瀬清子は、明治39年に岡山県赤磐郡（現・
赤磐市）で生まれました。金沢を経て名古屋へ
転居すると、大正13年、当時開校されたばかり
の愛知県第一高等学校高等科英語部
（現・愛知県立明和高等学校）へ入学。詩人・佐
藤惣之助を師に得ると同人詩誌を中心に活躍
し、昭和5年、第一詩集『グレンデルの母親』を
刊行しました。戦争

中は岡山に戻り、農
業につとめながらも
詩を書き続けまし
た。昭和62年に刊行
した詩集『あけがた
にくる人よ』で地球
賞とミセス現代詩
女流賞を受賞。「現
代詩の母」と評され
ました。



『あけがたにくる人よ』
永瀬清子（思潮社）



『諸國の天女』永瀬清子
（河出書房）



永瀬清子（提供：赤磐市教育委員会）

を卒業し、戦争が激化する中、東京の専門学
校に進学します。卒業後の昭和28年、詩人・
川崎洋（ひろし）とともに同人詩誌「権」を創刊。昭和
30年、第一詩集『対話』を刊行すると、その後
も『鎮魂歌』や『自分の感受性くらい』、『倚
りかからず』などの詩集を刊行し「現代詩の
長女」として詩壇を牽引しました。

今回の企画展では、日本を代表する詩人
二人の作品や貴重な資料をご紹介します。



茨木のり子（提供：宮崎治）



『鎮魂歌』
茨木のり子
（思潮社）



『寄りかからず』茨木のり子
（筑摩書房）

茨木のり子は、大正15
年に大阪で生まれ、6歳
の時に愛知県幡豆郡（現・
西尾市）に転居しました。

西尾尋常高等小学校（現・
西尾市立西尾小学校）、愛
知県西尾高等学校（現・
愛知県立西尾高等学校）

トークイベント

「現代詩の母・永瀬清子と
現代詩の長女・茨木のり子」

◆鼎談／三田村博史（中部ペンクラブ顧問）

熊谷誠人（愛知県立熱田高等学校校長）
白根直子（赤磐市教育委員会学芸員）

◆日時／令和5年3月4日（土） 13時30分

◆会場／文化のみち二葉館1階大広間

※入場無料（要入館料）

◆定員／50名

※2月18日（土） 10時／文化のみち二葉館に
電話申し込み

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止
または変更になる場合があります

出演者プロフィール

三田村博史（みたむらひろし）

全国同人雑誌協会名誉会長。中部ペンクラブ顧
問。著書に『姜の亡命』『漂い果てつ』（風媒社）、
『東海の文学風土記』（中日新聞社）など。第一
回中部ペンクラブ文学賞、名古屋芸術特賞。

熊谷誠人（くまがまこと）

愛知県立熱田高等学校校長、詩人茨木のり子の
会会員。「愛知で読む茨木のり子」を研究テーマ
に論文を執筆。NHK名古屋の番組で茨木の母
校・西尾高等学校での特別授業の様子や自身が
命名した「のり子ロード」が紹介された。

白根直子（しらねなおこ）

赤磐市教育委員会学芸員。岡山市生まれ。平成17
年1月から永瀬清子の里づくり事業を担当。思潮
社から刊行予定の『永瀬清子全詩集』の編集・解
題にたずさわる。現代詩手帖（思潮社）、詩と思
想（土曜美術社出版販売）などに寄稿。

主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館

名古屋市東区榑木町3丁目23番地
Tel & Fax 052-936-3836

【名古屋市旧川上貞奴邸】 <https://www.futabakan.jp/>

「ドニエコきっぷ」「一日乗車券」
を利用してご来館の方は入館料割引！
一般200円→160円

おでかけは金バス／メーグル
なごや観光ルートバス
NAGOYA SCENTING ROUTE BUS



交通のご案内

- なごや観光ルートバスメーグル「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機
関をご利用ください。



公式サイト



Instagram

